

ヘルスマーター

慢性腎臓病患者さんの 「腎性貧血」に対する新しい治療薬

我が国では、約1,300万人の慢性腎臓病患者がいると推定されています。

慢性腎臓病とは、①尿異常・画像診断・血液・病理で腎障害の存在が明らかであること(特に蛋白尿の存在が重要)、②腎臓の働きが健康な人の60%以下に低下する状態であること、①・②のいずれか、または両方が3カ月以上持続する状態を言います。

腎性貧血のこれまでの治療薬

慢性腎臓病が進行すると、多くの患者さんが慢性腎臓病によりヘモグロビン等の低下を認めます。これを「腎性貧血」と呼びます。主にエリスロポエチン製剤という注射薬を、おおむね1～2カ月に1回皮下注射することで治療が行われてきました。

これは腎性貧血に対して有効ですが、皮下注射が必要なため痛みを生じることが問題点としてあげられます。

腎性貧血の新しい治療薬

近年、腎性貧血に対して、HIF-PH阻害薬という内服薬が使用できるようになりました。HIF-PH阻害薬は内服薬で、従来の注射薬と比較して同等に腎性貧血に対して有効です。内服する煩わしさはありますが、注射薬ではないので痛みを生じないことが最大のメリットです。

ただし、糖尿病などによる網膜症を併発しており網膜出血を発現するリスクが高い患者さんや、悪性腫瘍の加療中の患者さん等、使用を控えた方がよい患者さんもいますので注意は必要です。

腎性貧血治療を受けている方で、「注射による痛みが辛い」と感じる患者さんは、担当の先生へ内服薬の使用についてご相談ください。